



# こくろうよなご

第14号  
2024年3月10日  
発行責任者 倉下文明  
編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

## 偏った配分の是正を！

24春闘に向け、1月27日の第194回中央委員会にて17000円のベア要求を確立、期末手当をはじめとする諸手当も含めて物価高に負けない賃上げを勝ち取る意思統一を固めてきました。米子地本では、昨年12月23日に24春闘情勢についての「労働講座」と「春闘討論集会」の開催、その後、全ての分会で春闘討論集会在され、3月5日にはリモートにて中央総決起集会に参加してきました。

3月5日の「24春闘勝利国総決起集会」には、米子連合分会の組合員を中心に、リモートにて参加してきました。松川中央執行委員長の「物価高により実質賃金は21ヶ月連続割れ、職場から春闘を再構築しよう」とのあいさつで始まり、タクシー業界の労働者で組織されている全自交労連の本田 有氏よりタクシードライバー不足を理由に、導入が進められようとしているライドシェアの問題点などについて講演がありました。講演を聞いて特に印象に残ったのは、欧米式のライドシェアが合法化されれば、都市部では過当競争と交通渋滞が発生し、過疎地では鉄道もバスも



タクシードライバーもライドシェアもない「完全な交通空白地」が増加するという件です。交通運輸労働者が連携しながら、公共交通を守っていかなければならないと感じました。

西日本本部における春闘の団体交渉は、趣旨説明を含めて5回にわたり開催されてきました。交渉の中で、会社からは「運輸収入は9割方戻ったが、価格転嫁できない分、利益は7割程度で見直しも楽観視できない」「要

求に全て応えられれば良いが、原資は限られている」など厳しい姿勢を崩しませんでした。人への投資と会社や株主に偏った配分は是正こそが必要であり、コロナ禍での労苦に報いる回答こそが日本経済が低迷を抜け出す事にも繋がります。

## 利用状況への配慮を！！

昨年10月から始めた自治体交通政策担当との意見交換も早5か月が経過しました。2月11日には、午前中、小川・芦原市議に紹介頂き浜田市へ、午後からは植田市議にご紹介頂き江津市において、それぞれ交通政策に関する担当者との公共交通を取り巻く現状や課題・要望について意見を交わしてきました。

浜田市では、地域施策部から出席をされました。はじめに、利用促進として出張についてはなるべくJR利用を呼びかける一方、「災害や設備故障などで往來に支障が出ることも多く、推奨しづらい面もある」と言われていました。定時運行の大切さを改めて感じました。要望では、高校生の通学に支障があ

る事から快速列車の復活運動や、やはり高校生利用が多い西浜田駅が改修に伴い、列車待ちで雨・風もしのげないほどコンパクトになり、駅舎のトイレも撤去をされたため、市で簡易トイレを配備していると言われている利用状況に配慮をした設備にしてほしいとの要望でした。また、西浜田駅・三保三

## 各社で若年退職が増加

去る2月24日、中央本部オルグとして、岩元書記長にお越し頂き、24春闘情勢及び情報配信アプリ「ツナグ」の登録及び活用などを中心に、報告を受け意見交換を行ってしました。まずは、24春闘に向け、国労として17000円の統一ベア要求を掲げ、物価高に負けない賃上げを勝ち取る決意が示されてきました。また、24春闘を取り巻く情勢の特徴として、JR各社で合理化が凄まじい勢いで展開され、若年退職の増加となって表れている事が報告されています。また、国鉄分割・民営化以降、設備投資がおおざなりにされてきたことが、1月下旬に発生した新幹線大宮〜上野間で発生した架線

偶駅は、月極め駐車場になつていないため、一般利用が出来ないとの声があることも言われていました。パークアンドライドの充実などが、代替えのバス代行の観点で施策を見直すことの大切も学ぶことが出来ました。午後からの江津市では、浜田市と同じように出張については列車利用を呼び掛けているということから、特急列車の増便の要望が出されています。市内は、バス異動、長距離は鉄道など用途を使い分けることで利便性の向上にもつながるのではないかとの事でした。また、来年度の取組として交通弱者対策を盛り込んだ交通網形

切断事故に表れていると言われている。そして、JR九州で進められる自動運転や6両ワンマン化、バスやタクシートの運転士不足を補うとして進められる「ライドシェア」などの問題点についても報告され、安全問題も含めて職場・地域から24春闘を全力で闘おうと呼びかけられました。その後、「ツナグ」の投入目的や活用方について意思統一を行いました。



成画を策定して交通空白地を減らす取り組みなど紹介して頂きました。一方、5年前に廃止となった三江線ですが、代替えのバス代行を担う事業者がなく、国が責任をもって対応してもらいたいと言われていました。最後に自動車を使わない生活や「何故、公共交通が必要なのか」を踏み込んで考える機会も大切ではとの提起も頂きました。